

Hub Park
 中央公園を介してみんながつながり、交流できる複合拠点
 新庁舎とふれあいセンター、バス、公園の利用者など、ひとや交通が集まる
 結節点(Hub)として、ひとやまち、風景がつながり、にぎわいを創出します。

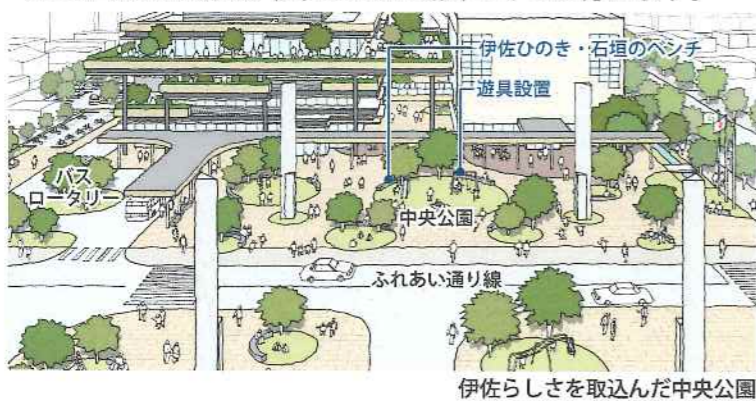
**建設地周辺市街地との一体的利用を図ることによる、にぎわいの創出や地域活性化
 まちとつながり、市民の憩い・交流の場となる中央公園
 まちとつながる「緑・花のネットワーク」**

- 中央公園には、桜などを植樹し、庁舎とまちとを一体的につなげる「緑・花のネットワーク」を形成します。
- 日常は市民の憩いの場となり、イベントの開催・準備の場所として活用することで、にぎわいを創出します。



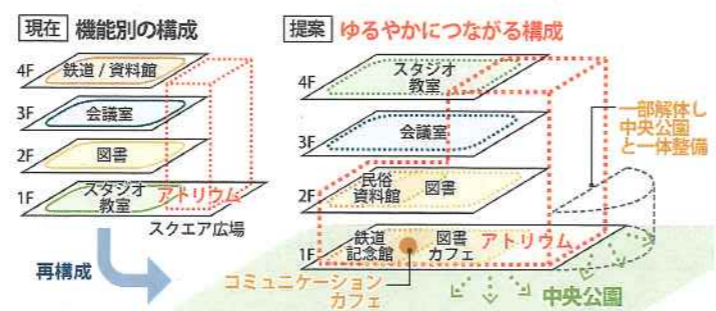
水どころである伊佐らしい水紋をモチーフにした公園

- 中央公園は、水紋をモチーフにした丸い芝生エリアを分散して設置し、多様な居場所をつくることで、遊び、憩い、交流を生み出す配置とします。
- 伊佐ひのきや麓の石垣をイメージしたベンチ等、市民が憩える空間を整備し、伊佐らしい公園づくりを行います。



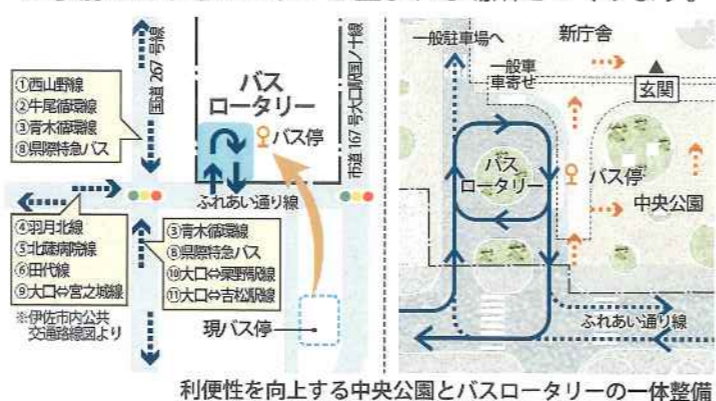
**ふれあいセンターとの一体的、複合的利用を図ることによる、にぎわいの創出や地域活性化
 アトリウムを中心にひろがる地域活性化拠点
 にぎわいがひろがるふれあいセンターの改修提案**

- 1,2階にはアトリウムとゆるやかにつながる図書やカフェ、鉄道記念館や資料館、3,4階には予約制の会議室や教室・スタジオを配置し、アトリウムを中心ににぎわいや交流がひろがる改修案を提示します。



**にぎわいがひろがるふれあいセンターの改修提案
 バス路線を含む既存の道路交通網を活かした交通の拠点として建設地内での一体的な整備
 中央公園とバスロータリーの一体整備により利便性を向上**

- 交通の結節点であることやかつて駅があった土地の歴史を継承し、新庁舎とふれあいセンターの南西側に屋根付のバスロータリー・車寄せを設け、中央公園と一体となった駅前のようなにぎわいが生まれる場所をつくりたい。



**地域産材の活用と地域産業の活性化
 市民に親しまれる拠点づくり
 伊佐の風景を活かした心地よい休憩テラス**

- 伊佐盆地は、南九州山系の山々に囲まれ、田園風景や河川など自然景観が広がります。
- 新庁舎の四方に休憩テラスを設け、伊佐の美しい風景を楽しめる計画とします。
- 新庁舎4階の市民開放エリアに面して伊佐の美しい星を眺める『星空テラス』を設けます。



**市民参加型の新庁舎づくり
 伊佐市民が主役のまちづくり
 「みんなで時間を共有し賑わいを育む」協働のプロセス**

- 市民、民間団体、行政、プロジェクトに係る全ての方々との対話による設計を積み重ね、共につくるプロセスを共有します。
- 様々な打合せや協議を通じて、時間を共有し信頼関係を築きます。

市民・職員・学生ワークショップの開催による協働

- 基本設計では、市民や職員、学生を対象としたワークショップを継続して複数回開催し、設計案にフィードバックします。
- 新庁舎とふれあいセンター、中央公園について、使い方の検討や施設の在り方について、現地調査、意見交換、発表を行い、市民ニーズを確実に設計に反映します。
- 工事監理段階では、多目的トイレ等のモックアップにて確認を行い、多様な利用者の視点を計画に反映します。
- 現場見学会やものづくり体験を開催し、伊佐への愛着やものづくりの楽しさを共有することにより、末永く親しまれる複合拠点づくりを行います。



ワークショップの例

伊佐の未来を担う拠点づくり

- 伊佐のみんなで時間を共有し、実施する説明会やワークショップの成果を大きな財産とし、これからの伊佐のまちづくりにつなげていきます。